

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
佐原駅周辺地区

平成24年7月
千葉県香取市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	小野川周辺の来街者数	万人/年	35.7	44	53.6	確定 見込み ●	○	あり なし ●	33.0	H24年6月	×	震災により小野川周辺の重要伝統的建造物群保存地区が大きな被害を受けた。 ■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	平成23年度は震災の影響で来街者数が大きく減少したが、平成22年度までは、賑わい空間創出事業等の実施により、小野川周辺の来街者数が増加し、交流人口の拡大が図られている。
指標2	来街者の滞在時間	時間/人	3.5	4.2	3.0	確定 見込み ●	×	あり なし ●	3.0	H23年6月	×	ビギナーの来街者の割合が依然として高く、なかなか滞在時間の増加につながっていない。また、震災により被災したことも要因の一つであると考えられる。 ■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	ビギナーの来街者がリピーター化するような取り組みを引き続き推進し、滞在時間と消費額の増加を図りたい。
指標3	来街者の消費額	円/人	6,300	7,600	5,600	確定 見込み ●	×	あり なし ●	3,500	H23年6月	×	来街者の滞在時間と消費額は密接な関係があり、指標2のとおり滞在時間が増加していないため、消費額の増加につながらない。また、近年の景気低迷も要因の一つであると考えられる。 ■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	ビギナーの来街者がリピーター化するような取り組みを引き続き推進し、滞在時間と消費額の増加を図りたい。
指標4	広域交流拠点施設利用者数	万人/年	0	82	215	確定 見込み ●	○	あり なし ●	96.8	H24年4月	○	平成23年度に利用者実態調査を実施し、利用者数の算定方法をレジ通過者の3倍から2倍に見直した。 ■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	年間約100万人が訪れる施設となっており、直売所等の売上高も好調で、地域経済の活性化に貢献している。
指標5	舟運利用者数	万人/年	1.7	5	3.1	確定 見込み ●	△	あり なし ●	1.5	H24年4月	×	震災により、護岸・棧橋等が被災し、一部区域が運航不能となった。 ■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	震災の影響もあり、舟運利用者数が増加しないが、早期に全区域で運航できるようにし、PRを強化して利用者数の増加を図りたい。
指標6	放置自転車数	台	240	10	0	確定 見込み ●	○	あり なし ●		H 年 月		□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	自転車駐車場整備により、放置自転車数がなくなり、利用者の利便性が向上し、良好な景観が確保されるようになった。
指標7	JR佐原駅利用者数	人/日	1,100	1,200	865	確定 見込み ●	△	あり なし ●	752	H24年7月	×	沿線人口の減少が著しく、高速バス普及の影響もあり、JR利用数が減少している。 ■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	駅舎整備、自転車駐車場等により、駅利用者の利便性が向上した。

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	佐原駅前観光案内所の物産等売上金及び利用者数	万円/年 万人/年	503 2.5	/	1,029 5.6	確定 見込み ●	/	/	650 1.9	H24年6月	/	震災により、観光客数が減少したため、観光案内所の利用者数等も減少した。 ■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	震災の影響により、利用者数等は減少したが、10月以降の売り上げは前年並みとなっており、復調の兆しが見られる。佐原駅舎と隣接する観光交流センターとの連携を図り、利用者数等の増加を図りたい。

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事業評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	広域交流拠点(水の郷さわら)を核とした都市・農村交流の更なる拡大	水の郷さわらにおけるイベントの実施	イベント実施時は多くの来場者で賑わい、売上の増加につながった。	現在の利用者数を維持できるよう、賑わい創出イベントの継続的な実施と情報発信の強化を図る。
	広域交流拠点(水の郷さわら)での水辺の活用	震災により、栈橋等が被害を受けたため、仮設栈橋を設置した。	護岸、カヌー乗り場等も被害を受けたため、十分に水辺施設を活用することができなかった。	早期に水辺施設を復旧し、復旧後、PR活動を強化し、利用者数の増加を図る。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題、新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	駅周辺の利便向上・機能強化	平成24年度からの5年間を計画期間とする都市再生整備計画を策定し、駅前広場整備事業、(仮称)まちおこしセンター整備事業等を実施している。	駅周辺の利便性の向上と賑わいの場の創出等を目指し、事業を進めている。	
	佐原駅と小野川周辺の回遊性の向上	平成24年度からの5年間を計画期間とする都市再生整備計画を策定し、ウォーキングトレイル促進事業を実施している。	佐原駅と小野川周辺の回遊性の向上を目指し、事業を進めている。	
	広域交流拠点(水の郷さわら)と小野川周辺の回遊性の向上	水の郷さわら、小野川周辺等、市内の観光拠点を回る循環バスの運行を開始した。	日曜日・祝日の運行でスタートしたが、多くの利用者があったので、土曜日の運行も加え、土曜日・日曜日・祝日に1日13便運行している。	被災した護岸等を復旧し、舟運による回遊性の向上を図る。
	滞在時間や消費額等の経済的効果の拡大	平成24年度からの5年間を計画期間とする都市再生整備計画を策定し、(仮称)まちおこしセンター整備事業、連携イベント事業等を実施している。	滞在時間や消費額の拡大を目指し、事業を進めている。	

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項